

たわわ

TAWAWA

NPO 法人地域で生きる障害者を支える会通信

発行 2012年7月30日

124号

NPO 法人

「地域で生きる障害者を支える会」

住所：横浜市港北区下田町6-31-8

活動ホーム「しもだ」内

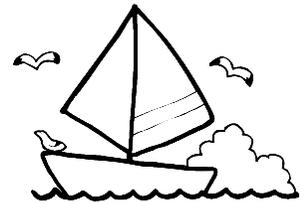
TEL 045-562-3600

FAX 045-562-5991

◇写真・パネル展「地域で暮す重度障害者」

障害者の生活と笑顔を発信

——今年が10回め、7月23日～28日、
大倉山「ギャラリーかれん」にて開催、——



今年も暑い夏です。素人作りのみどりのカーテンも見る見る茂って、太くて短い(!)実をつけはじめました。皆様の体調はいかがでしょう。

毎朝、夕の新聞は、オリンピックのニュースでいっぱい。日本の選手の頑張りには、スポーツに縁遠かった人も肩入れしたり 励まされたり...

“最速の人”ボルトが、背骨が曲がっている困難を克服しながら、訓練を重ねてきたと知れば「家の娘も側湾なのよ」と一層応援に 熱が入ったり...

“爽やかな努力の結果の祭典” だと言う安心感が、共通の話題を提供してくれます。

一方で、社会では大切な事がたくさん、進行しているのですが...

* * *



さて、今年も暑い中、「支える会」の啓発事業の写真展がおこなわれました。

東横線大倉山駅に近いギャラリーかれんで、今年も10回になりました。

あまり知られる事のない重度障害者の生活を地域の方たちに知らせ、理解を広げていくための運動のひとつとして、写真とともに、最近では現状と課題を知らせるパネルも展示してきました。

あわせて、この通信TAWAWAの増刊号として、冊子を発行し(B5版 42頁 500冊)、障害当事者の声や、支援している人たちの声を一般の市民の方たちにお届けしてきました。

会場には、障害者の家族たちも交代でつめ、ご来場者の皆さんとの会話を通して、直接の交流ともなります。

ときには、悩みを抱えた障害者の家族の方たちもみえたりして、励ましあったりご相談に乗ったり

と、こうした場の必要性を感じるときもありました。役所でも、相談機関でもなく、なんとなく当事者に近い人たちに、ほろりと抱えている胸のうちを明かせるところでもあります。

こんなにドライになっている社会でも、もしかしたらだからこそ、制度の充実だけでは解決しきれない事、なみだのにじみ出るような思いを理解しあえる出会いが一時的癒しになるのかと思います。

また、普段あえない会員同士が集い、再会に花が咲く事も楽しみの一つです。

* * *

経費については、社会福祉法人港北区社会福祉協議会の「みんなの助成金」や神奈川新聞厚生文化事業団のご助成、ご寄付などによりまかなわれています。

開催の時期については、『何でこんなに暑いときにやるの、しかもオリンピックに重ねて...』と、遠方よりの応援者から冗談交じりのお叱りもいただきましたが、これは、会場の「ギャラリーかれん」の人気が高く、毎回、前年の1月の抽選となっているので、いかんともしがたいところなのです。

今回は、夏季休暇前で忙しくもあり、猛暑でお出掛け頂きにくい気候でもあり、誠に申し訳ございませんでした。

来年は、10月“芸術の秋”に取れているのですが、同じイベントを継続するかどうかは、諸事情の検討をまって決めたいと思います。

何事も、続けるのは大変ですが、その前に、続ければ良いと言うものでもないと思います。これまでの運動を振り返り、変えていくことも必要かと思っておりますので、ぜひ、会員の皆様のご意見をお寄せください。お待ちしております。



ご入会ご継続ありがとうございます

<敬称略>

〔会員〕

阿部 八重子 宮田 忠夫 久松 孝夫

〔賛助会員〕

安田 章子	北川 道子	櫻井 徹	宇賀持てる子	赤瀬 福子
石井 正夫	平等 志成	阿部 太二	下野 正男	下野 芳子
萬治 進	萬治 敏子	楠戸 滋夫	楠戸 エミ	岩崎 正行
岩崎ふさ子	川尻 浩介	川尻 章子	新田 新之介	新田 恵子
山本 暁子	西條 みえ	山本 邦子	福島 喜美代	古田 節子
黒沢 千草	清宮 一恵	由井 昌子	西富 房江	山田千枝子
鈴木喜三枝	福島 綱子	松本 直子	荒井 洋一	荒井奈津美
五十嵐千恵	山口 邦雄	山口美和子		

〔団体賛助〕

新吉田地区社会福祉協議会
ゴールドケアサービス
パナホーム(株)東京支社
株式会社神奈川福祉文化協会 LLT介護サービスセンター

【お便り】

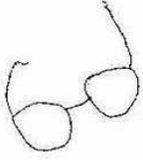
皆さんの頑張っておられる姿が、いつも私の励みとなっています。
通信「TAWAWA」ありがとうございます。(北川様)

【ご寄付】

花岡 満子様

ニュース

「活動ホームしもだ」は、建設されてより間もなく24年が経ちます。カベや床の痛み、空調の取替えの必要などが出ていましたが、ようやく今年の夏休みを利用して、リフォームすることになりました。一週間の夏休み期間だけでは、工事が済みませんので8/16～24日までの間は、中休みも1日入れながら館外の会場に分散して活動をおこないます。慣れない場所を使つての活動でケアするスタッフも、障害者も何かと大変でしょうが、工事が終わって帰るときにはきっと晴れ晴れとする事でしょう。活動ホームが開所した時の事を思い出します。



めがねの声

◇中国にも活動ホームと同じようなところが...

全国肢体不自由児者父母の会の中国交流団の旅行がありました。私も参加しましたが、久しぶりで母との旅行にいきました。

中国は2回目でした。3年前にいったときは、昼も夜も車の警笛がうるさかったのですが、今度行ったら、静かになっていて、母とで驚きました。添乗のガイドさんに聞いたら、「そうでしたか、交通ルールは守らないと...」と言っていました。

障害者スポーツセンターや、リハビリテーションセンターなどいろいろなところへ見学に行きました。

北京にある、国立の障害者体育訓練センターは2回目でしたが、今度は競技の練習の様子もみました。休日でしたが、特別にやって下さったそうです。

広い敷地にいろいろな競技ごとの練習場が立っていましたが、目の不自由な仲間が、ボールの中に鈴を入れてやる、ごろバレーのようなサッカーのような競技の練習をみました。私は、この競技を実際に見るのは初めてでした。女子の車イスのバスケット場や、大きなプールでは、やはり激しく練習をしていました。横浜にも「横浜ラポール」などの障害者スポーツ・文化施設がありますが、もっとずっと大きなものです。500人泊まれる宿泊の施設もありました。

* * *

杭州では、障害者スポーツセンターについている立派なホテルに泊まりました。

周りは山に囲まれていて、とても気持ちのよいところです。私は、山や森の中を散策するのが大好きですので、皆もきっと気持ちよくスポーツが出来るのだろうなと思いました。ここでは、合宿する事もできます。

杭州では、地域の障害者のリハビリ施設も見学しました。

3階建てですが、横浜の私たちの障害者地域活動ホームのようなところです。ここでは、刺繍や、造花などを作っていました。大きな長い布の看板もつくっていました。パソコンで作った大きな型紙の文字を、ペンキ(?)でうつしていきます。この作業は、私は初めて見ました。何か折り紙をしたりしている人もいました。

この頃、私たちの活動ホームでも、1人とか2人とか別々に好きな事をして活動したり、創作の専門の職員がいたりしますが、同じようだなと思いました。

そこに通えない障害者のところへは、時々医師が訪問したり、お薬を持っていく活動もしているようです。私は、日本でも、このような活動があるといいなと思いました。

私たちの活動ホームやグループホームは、入居者が重度の障害者なので、毎月一度、訪問看護の方が来て健康のチェックをしたり、PTの先生もたのんで来ていただいています。が、横浜全体ではまだまだだと思います。

上海の博物館で、絵を描く先生にお会いできたり、いろいろと忙しかったけれど、楽しかったです。

大原友子

